

実効性の確保について

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
心配	自治基本条例 理念 おおまか、抽象的 どうチェックする？ 例えば 川さらい やれない人 手伝いをする人	市民への浸透 年1回の反省会 チェック 項目と基準は何？ 数字のほうがわかりやすい 数字だけでは…？	理念だけでいいのでは？	
方向性	規制をかける、マイナスのチェックはやめよう ほめあうチェックに みんなでほめあう土壌をつくる C→評価 (A) 賞賛する admire A→表彰する、授与する award	市民がやってるよいことを行政が知らない→市民の善意を転換するスキル		
チェック	内容			定期的に確認＝自己採点 振り返るため 前向きにチェックする プラス志向
	システム	個別の事案について条例に合っているのかどうかは検討できる		単純にはこの条例通りかどうか、みていく 条文、市民、行政の不備不足をチェック→すみやかに必要な措置を講じる 4～5年長いスパン
	組織体制	チェックでなく表彰制度 投票 個人、団体 市民、議会、行政の枠を超えてフェアに1票を投じる 全市的な取り組みが必要 市民等から意見を収集→市民自身、行政、議会 カテゴリー	結果 公表する	
	その他	審議会のみでのチェックでは形骸化する 収集したものを審議するなら審議会は必要 審議会 票のとりまとめ、整理 市民、議会、行政の代表者で構成する 島田全体のこと 議会、行政、市民の代表者を出してチェック機関をつくる 島田全体の条例なのに、「審議委員会」の事務局が行政内にあったらおかしい？！ 「議会基本条例」議会が作成 チェックは議会外がすべき 市民 次の選挙で反映される チェックできるのは第三者機関	年度ごとの計画（長期的な視点で） 職員に自治基本条例マイスターを	
その他				情報公開されていないとチェックできない 毎年、市民啓発、職員研修

《まとめ》条例の実効性を高めるために

1) 自己採点 → 2) 「取り組み具合・褒める」市民の声を集める → 3) 組織体でチェック①検討～個別の事案が条例に合っているか ②収集した市民の声を集約する（→4) 検討結果の公表 →見直し）

↓
組織 (が必要)

事務局 形骸化を防ぐしくみにするには行政ではないところで 構成員 A案) 市内 市のことだから B案) 第三者 公平性、客観性重視

その他) ・研修 行政 職員マイスター（職員周知のための役割）例) 防災マイスター / 市民 市民の知識をつける 例) 地域防災リーダー 底辺を広げる
・年次計画 数値のほうがわかりやすいが、項目、基準をどうするかが課題→形骸化を防ぐ 行動計画で進捗管理とともに、条例を意識した執務ができる